

ファロー（Fallot）四徴

ファロー四徴とは？

チアノーゼをきたす先天性心疾患の中で最も多く、①心室中隔欠損、②右室流出路～肺動脈狭窄、③大動脈騎乗、④右室肥大を特徴とします。22q11.2欠失症候群、ダウン症などの染色体異常に合併することがあります。

どのような症状が起きますか

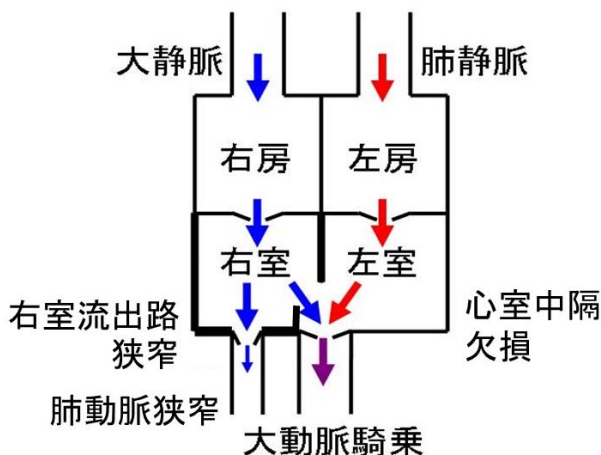
チアノーゼが主な症状ですが、右室流出路狭窄の程度により、強さや出現時期も異なります。チアノーゼよりも心不全が目立つ例もあります。生後2～3か月頃から、啼泣・脱水などを契機に、チアノーゼが悪化する状態を無酸素発作（低酸素発作、スペル）と呼びます。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真や心電図検査を行い、心エコー検査で確定診断します。手術時には心臓カテーテル検査も行われます。

どのように治療しますか

重症で新生児期に肺血流が乏しい場合、プロスタグランジンE1という薬剤で動脈管を開存させます。無酸素発作の危険がある例では、予防のためベータ（ β ）遮断薬内服などを行います。チアノーゼが強い例では、鎖骨下動脈から肺動脈へ人工血管でバイパスするシャント手術を行うことがあります。修復手術は、右室流出路形成術と心室中隔欠損閉鎖術により、生後3～6か月以降に行います。



三浦 大：Fallot 四徴，

三浦 大 編：はじめて学ぶ小児循環器．

P 63, 診断と治療社, 2015. より改変して引用.